



## 1. 運動センサを活用した新しい取り組みが始まる

12月14日運動センサを活用した運動プログラムの検証実験がふれあいラボで始まりまりました。住友理工は九州大学との共同研究の一環で、フレイル予防の訓練機器として「運動センサ」を開発。



圧力センサの入ったシートの上で、目の前に設置したディスプレイに表示された説明に従い、自分の重心移動を確認しながら運動します。楽しみながら、質の高いトレーニングがおこなえるシステムの開発を目指し、今回の実験データをもとにアプリの開発が進められます。

## 2. CPR講習会に参加しました

12月15日糸島市消防本部で胸骨圧迫実技指導講習会が開催され、市内の介護施設職員など14名が参加しました。実技講習にはしんのすけくんを使用。実際の圧迫位置、強さ、リズムなどが可視化され、最後に点数が表示されます。参加者からは圧迫位置が見てわかるのでよい、点数化されるのでやる気になるとの声がかけられました。



## 3. ふれあいラボ講演会を開催（1）

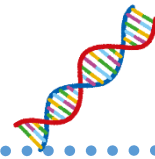
### ～促通反復療法の治療理論をリハビリテーションロボットに生かす～



促通反復療法研究所（川平先端リハラボ）所長川平和美先生が、12月21日健康福祉センターふれあいラボで「促通反復療法の治療理論をリハビリテーションロボットに生かす」をテーマに講演会を行いました。川平法とは麻痺した手や足を治療者が促通操作して、患者さんに意図した運動（随意運動）を実現・反復して貰い、その反復で脳から脊髄までの神経回路を再建・強化する治療法です。講演会では実際の治療風景の映像を交え、新しいリハビリテーションの技術を紹介されました。

## 4. ふれあいラボ講演会を開催（2）

### ～脊髄損傷者の歩行機能再獲得を目指して～



1月25日健康福祉センターふれあいで、国立障害者リハビリテーションセンター研究所河島則天先生が「脊髄損傷者の歩行機能再獲得を目指して－再生医療とリハビリテーション技術の融合－」をテーマに講演会を行いました。これまでの研究の経緯が紹介され、再生医療とリハビリテーション技術の融合によってより効果的に機能改善を導いていくための戦略とビジョンについて講演されました。

## 5. 加布里公民館サークルが来所

2月19日加布里公民館サークルの皆さん16名が来所。フレイルについての説明を聞いた後、測定体験等を行いました。普段測る機会の少ない握力やバランス測定など積極的に体験されました。



## 6. 九州大学・成功大学成果報告会を開催

2月19日健康福祉センターふれあいで九州大学・成功大学(台湾)の成果報告会が開催されました。前年9月26日、10月25日、11月8日の3回の日程で行われたワークショップでのインタビューから、グループ毎に課題解決のアイデアを発表。JAを媒介として農業を営む高齢者と若者を繋ぐサービス等が紹介されました。

